



平成17年度 / 中間期

決算説明資料

株式会社 ソフトフロント
証券コード：2321
(大証ヘラクレス)
2005年11月4日

本日の説明内容

■平成17年度 中間決算について

■平成17年度 業績見通しについて

当資料中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断等の記載、又はその他の既に確定した事実に基づくもの以外の記載は、将来の業績についての見通しに関するものです。これらの見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想には、様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる可能性がありますので、この業績予想に全面的に依存した投資等の判断は差し控え願います。

平成 17 年度 中間決算について

資料中の数値は円単位の数値を百万円未満を切捨てし、また、パーセント表示は円単位の数値を基に算出した計算結果の小数点第 1 位未満を四捨五入して表示しております。

平成17年度 中間期 : 業績の概要

(単位: 百万円)

	平成16年度 中間期	平成17年度 中間期	増減
売上高	168	260	91
営業損益	157	110	46
経常損益	170	116	53
当期純損益	215	117	98

増収要因: 市場の拡大と販売戦略の効果で取引先が増加しており、それにもない順調に売上が増加しております。

「売上高」の状況

(単位：百万円)

	平成16年度 中間期	平成17年度 中間期	増減
売上高	168	260	91
SW販売	101	114	13
受託開発	66	144	77
その他	-	0	0

- ソフトウェア、受託開発ともに売上が増加しており、特にS I Pに関わる受託開発案件が予定どおりに受注できており、その売上増加が顕著となっております。

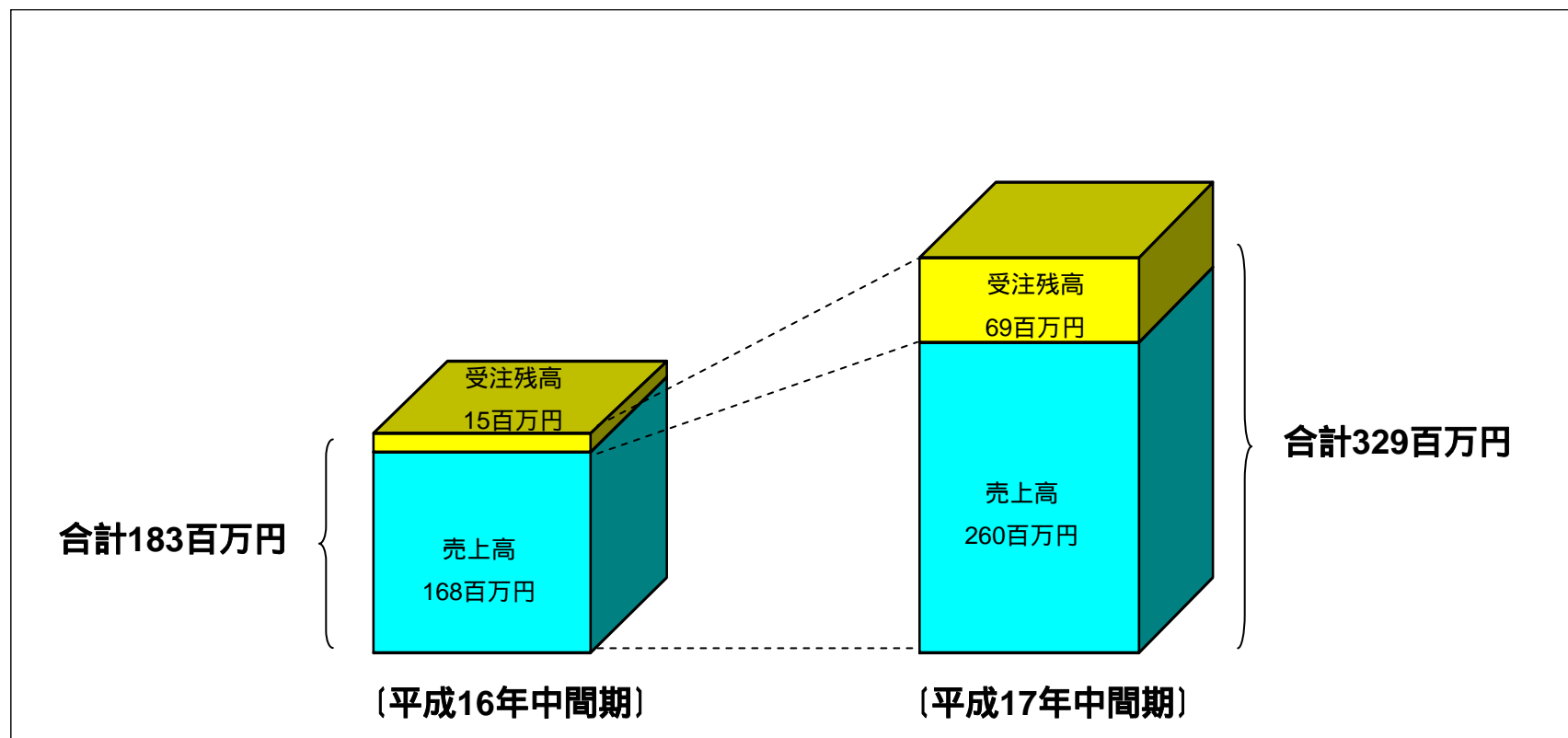
「受注高」の状況

(単位：百万円)

	平成16年度 中間期	平成17年度 中間期	増減
受注高	157	311	154
受注残高	15	69	54

- 受注高は前年同期に比べ98.4%増加しております。
- 中間期末時の受注残高も前年同期と比べて増加しており、第3四半期以降へ繰り越される売上の増加が見込めます。

【参考】売上高と受注残高合計の前年比較



- 売上高と受注残高を合わせた合計は前年同期に比べ79.4%の増加となっております。

「研究開発費・減価償却費」の状況

(単位：百万円)

	平成16年度 中間期	平成17年度 中間期	増減
研究開発費	84	77	6
減価償却費	41	42	0

平成17年度 中間期 : キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	96
税引前当期純利益	116
減価償却費	+ 42
売上債権の増加	9
仕入債務の減少	2
貸倒引当金の減少	0
その他	11
投資活動によるキャッシュ・フロー	37
財務活動によるキャッシュ・フロー	+ 556
現金及び現金同等物の増減額	+ 422
現金及び現金同等物中間期末残高	1,179
フリー・キャッシュ・フロー	134

平成 17 年度 業績見通しについて

資料中の数値は円単位の数値を百万円未満を切捨てし、また、パーセント表示は円単位の数値を基に算出した計算結果の小数点第 1 位未満を四捨五入して表示しております。

平成17年度 業績見通し

中間期業績見通しと実績

(単位：百万円)

	平成17年度 中間期		
	見通し	実績	差異
売上高	276	260	15
営業利益	153	110	42
経常利益	155	116	38
当期純利益	156	117	38

営業利益が見通しより大幅に良化しているのは、新規採用見込の相違による人件費減少分となっております。

平成17年度 業績見通し

平成17年5月13日に発表した通期業績見通しに変更はございません。

(単位：百万円)

	通期業績見通し
売上高	757
営業利益	84
経常利益	88
当期純利益	90

研究開発費の見通し：140百万円
減価償却費の見通し：77百万円

中間期実績で営業利益が見通しを大きく上回った分については、下半期の積極的な採用活動に投資するため、通期における業績見通しは変更ございません。